

第5代薩摩青雲丸 マグロ延縄実習開始！全員元気に頑張っています！！

令和7年10月26日発行 鹿児島水産高校 薩摩青雲丸 指導教官



マグロ延縄操業開始

鹿児島は過ごしやすいい候が続いていることと思えます。実習生保護者の方々にお願いします。益々健康のこととお喜び申し上げます。内地航海を無事終えた本船は、一旦枕崎港に寄港し、燃料補給及び餌や食料品を積み込み、十月十七日に漁場に向けて出港いたしました。そして、出港から四日目の十月二十一日、マグロ延縄操業実習の初日を迎えました。午前八時、操業の安全と大漁を祈願して、初縄を投入しました。本科生達は、その初めて見る光景と独特の雰囲気緊張した面持ちで臨んでいました。マグロ延縄操業は、仕掛けを投入する「投縄」から始まり、一本の幹縄に接続する780本の枝縄の釣り針に餌を付け海中に投入する作業で、約一時間半かかります。

海洋観測

投縄後には、マグロ延縄操業海域の海洋観測を、資源調査の一環として行いました。センサーを水深千メートルまで油圧ウインチで沈め、各深度における塩分濃度、水温を計測します。蓄積したデータは、マグロ類資源管理の貴重なデータとして専門の研究機関に報告しています。また、海水の透明度・水色調査も実施しました。実習生達は、外洋の澄みきった綺麗な海に感動を覚えているようです。この調査で、長期的にわたる海洋環境の変遷を把握することができます。

揚縄・資源調査

午後四時から約三時間かけて投入した仕掛けを引き揚げ、「揚縄」という作業を行います。もちろん、魚が掛かっていたら一匹ずつ引き揚げ、マグロなどは丁寧に血抜きをし、内臓やエラを除去するなどの処理が施された後、マイナス六十度の冷凍庫で急速凍結されます。また、獲れたマグロやカジキ類は「資源調査」のため、体長、重量、性別を測定・記録し、専門の研究機関へ蓄積したデータを報告します。このように、消費者の食卓に美味しいマグロが届くまでに、多くの労力や時間が費やされている事を、生徒達は理解できたことと思います。また、日本の基幹産業である水産業の技術習得・理解を得る貴重な機会です。実習生達は座学での知識の定着や漁獲の喜びを全身で感じる事ができました。



10/25正午位置

北緯:37°-33'76
東経:144°-28'25
海上は気温が17度で、肌寒く感じます。前線の影響でうねりが大きいです。



各種実習 機関部



枕崎入港中に、燃料補給を行いました。補給量は84KLで、ドラム缶に換算すると、約420本分のようになります。本船は一日で7KLの消費し、燃料タンクの総容量は340KLです。生徒達は各持ち場に付き、タンクレベルなどの安全確認を行いながら実施していました。

操業中の機関当直では、発電機の並列運転、単独運転を手動操作で行います。緊張する場面ですが、回数を重ねるごとに覚えていき、自信を付けているようでした。座学の「電気理論」で学ぶ内容を、実際の設備を活用して身に付けます。理解できれば面白くもあるようです。